

本資料には、個別工事費などの機微な情報が含まれているため、
一部情報については、マスキング処理をしております。

「中部関西間連系線に係る広域系統整備計画」における 関ヶ原開閉所新設工事について (事務局確認)

2025年 7月 24日
広域系統整備委員会
計画評価及び検証小委員会

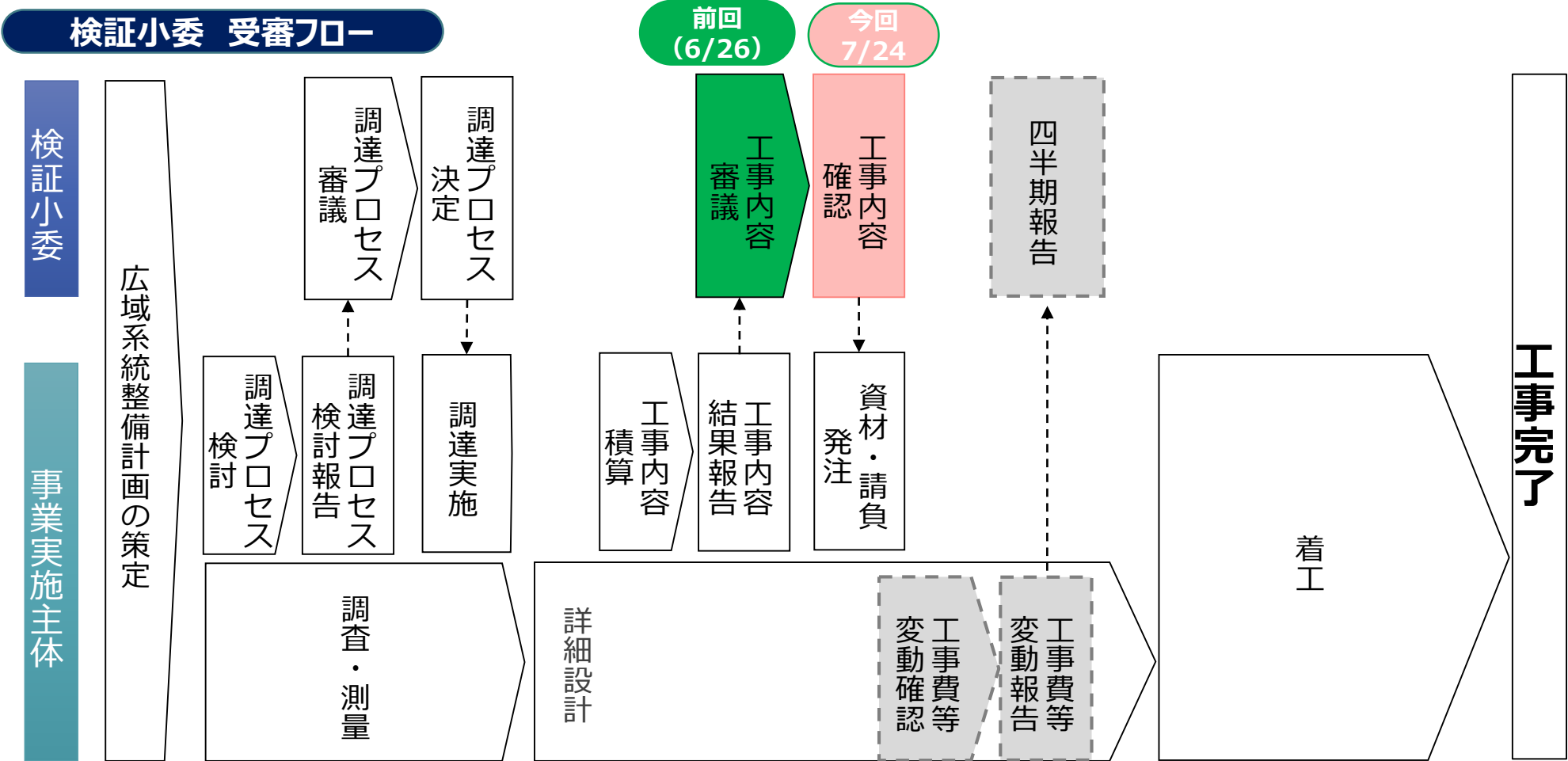
本日の検証小委の位置付け

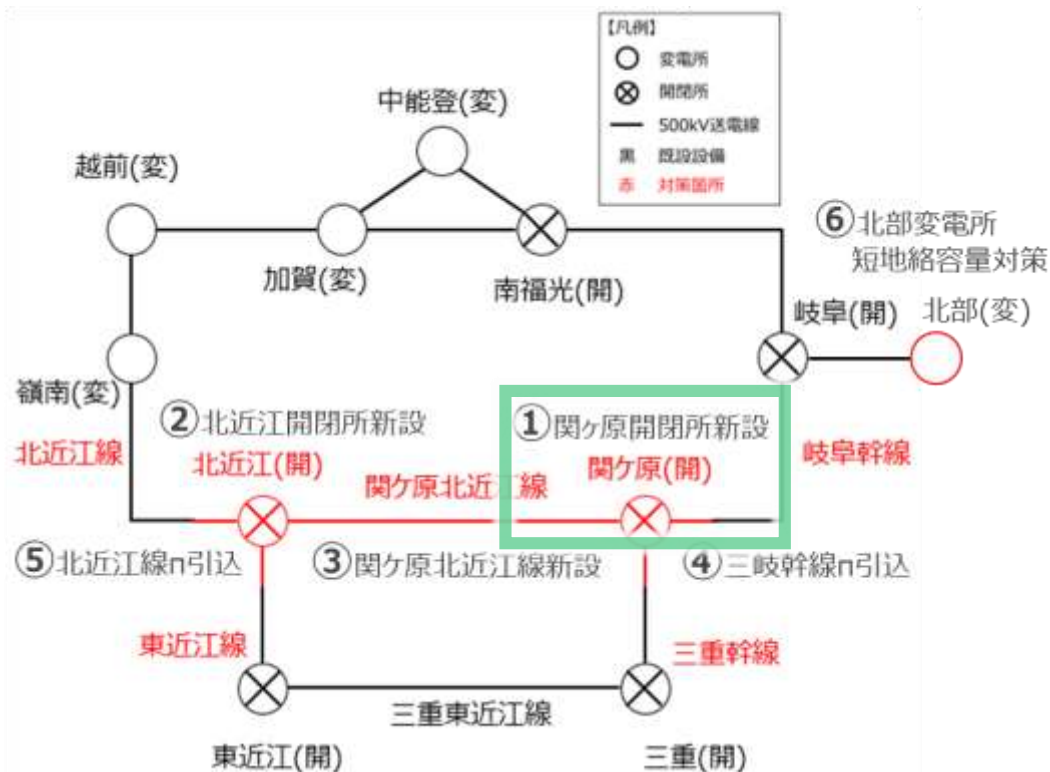
前回(6/26)の振り返り（工事費）

前回(6/26)の振り返り（工期）

まとめ

- 検証小委フェーズ2については、①調達プロセスと、②工事内容（工事費・工期）について、事業実施主体の準備ができたタイミングで、それぞれ確認を行っている。
- 前回の委員会（6/26）では、「関ヶ原開閉所新設工事」について中部PGから工事内容報告があり、ご審議いただいた。本日は前回のご審議を踏まえた今後の対応方針についてご審議いただきたい





◆費用の概算額 1,218億円
工事費の概算額 590億円
運転維持費の概算額 628億円

◆工事完了予定時期 2030年6月

◆事業実施主体 中部PG、関西送配電

個別工事件名	事業実施主体
今回	
① 関ヶ原開閉所新設	中部PG
② 北近江開閉所新設	関西送配電
③ 関ヶ原北近江線新設	中部PG
④ 三岐幹線n引込	中部PG
⑤ 北近江線n引込	関西送配電
⑥ 北部変電所短地絡容量対策	中部PG
— 電磁誘導対策	中部PG・関西送配電
— 給電システム改修	中部PG・関西送配電
— 通信設備	中部PG・関西送配電

- 「②工事内容(工事費・工期)」のうち、本日は事業実施主体(中部PG)から、主要工事・主要設備の発注前における工事費・工期について説明いただく。
- 本委員会において、「①調達プロセス」で審議した発注方式の実施状況や、コスト低減の取り組み状況等について、過去の検証手法に倣い確認を進めていく予定。

検証小委における確認事項

確認事項	対象の分類	確認項目	確認の観点	報告タイミング
調達プロセス	1.発注方式	- 発注方式選定の考え方 - コスト低減策の活用	① 「主要設備ごとの発注方式の基本的な考え方」との整合 ② 基本的な考え方に整合しない場合や、基本的な考え方で複数の調達方法を想定していた場合には、市場原理の確保、コスト低減への取組	広域系統整備計画の策定後、早期に実施
工事内容	2.工事費	- 発注段階の要求仕様、評価方法、工事費 - 具体的なコスト低減施策	① 実施案や過去の工事实績の概算工事費 ② 工事費が増加する見通しの場合、増加要因・理由や対応策(現地調査・詳細設計・物価変動反映による影響) ③ 具体的なコスト低減施策 ④ 調達プロセスの進捗状況	調査・測量等により設計精度が高まった段階で、資材又は請負発注前まで
	3.工期	- 工期の見通し - 本計画の工事完了時期への影響 - 工期短縮への取組方策	① 本計画の工事完了時期に対しての変化内容・理由。遅延する見通しの場合、対応策 ② 工期短縮に向けた事業実施主体の取組・方策 ③ プロジェクト管理体制(全体管理含む)	

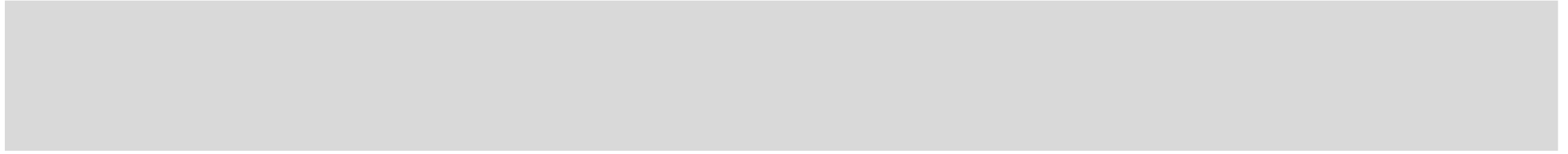
今回

赤枠：今回の審査対象項目



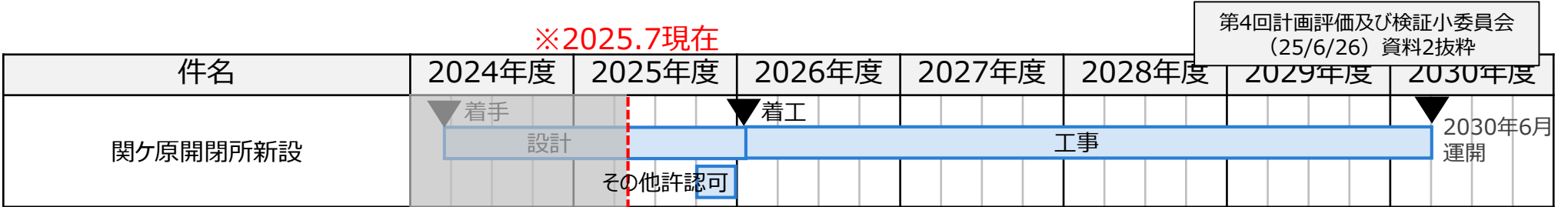
用等によりコスト低減が図られたとの報告が中部PGよりあった。

VE提案の採

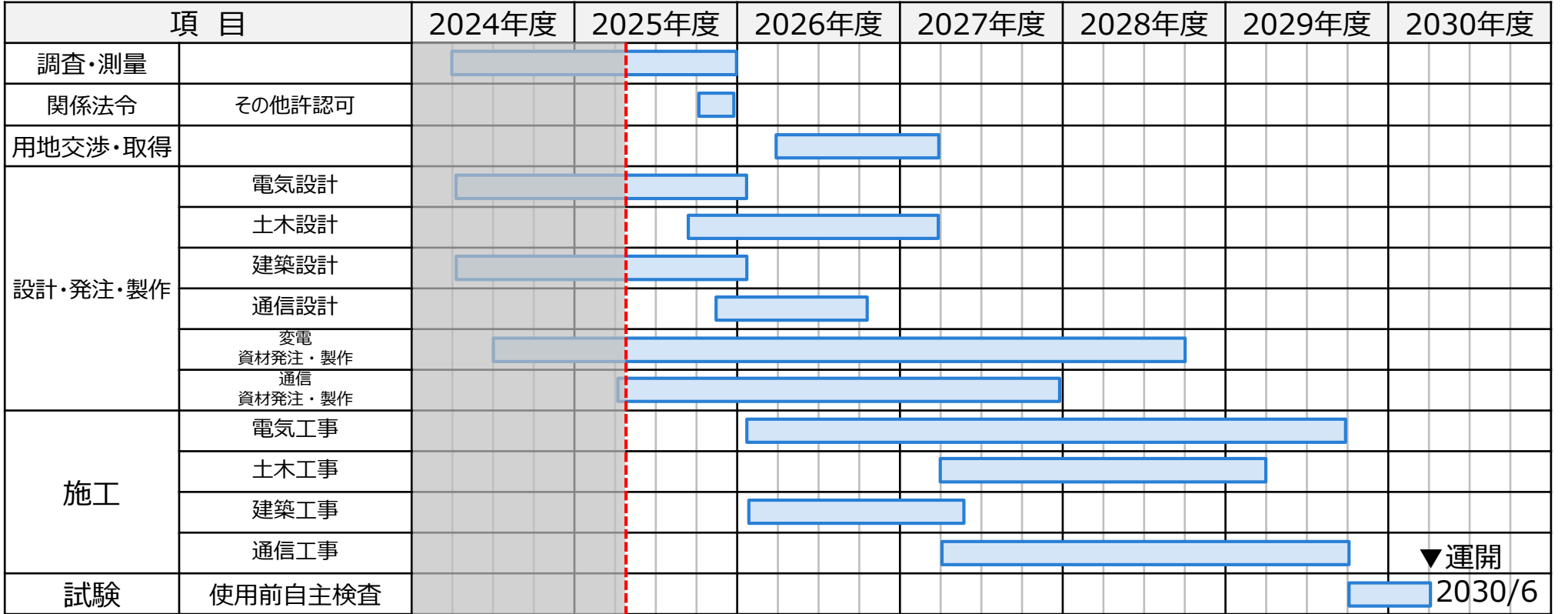


前回(6/26)の振り返り（工期）

■ 関ヶ原開閉所新設工事は、2030年6月の運開予定であり、現時点において、工事完了見込みに変更はないことのことだった。



以下、事務局確認



1. 工事内容（工事費）について

- [REDACTED] VE提案の採用等により、コスト低減が図られており、今回の工事費については妥当であったと考える。

- [REDACTED]

- [REDACTED]

2. 工事内容（工期）について

- 2030年6月までに工事が完了する見込みであることを確認した。

3. 今後に向けて

- 中部関西間連系線に係る広域系統整備計画のうち、関ヶ原開閉所新設工事については、[REDACTED]
[REDACTED] 中部PGの提案通りに進めることでどうか。